

学校運営協議会 議事録

校 名	府立 港 高等学校
校長名	浦 山 聖

開催日時	令和8年2月16日（ 月 ） 15：30 ～ 16：45
開催場所	大阪府立 港 高等学校 1階会議室
委 員	吉田 景一 委員 佐藤 美智 委員 川口 智 委員 常石 里美 委員
学 校	校長 浦山 聖 教頭 宮城 良明 事務長 麻野 佳之 首席 内藤 亮一 教務主任 加藤 学 生徒指導主事 早川 宏行 自治会顧問 宮地 耕介 進路指導主事 今木 一充 3学年主任 稲田 和明 2学年主任 吉田 正勝 1学年主任 八田 博公
傍聴者	なし
協議資料	・ 学年、分掌、委員会マネジメント表（達成状況） について ・ 令和7年度 学校教育自己診断 結果 ・ 令和7年度 学校経営計画及び学校評価 ・ 令和8年度 学校経営計画及び学校評価
備 考	

議題等（次第順）	
大阪府立港高等学校 令和7年度 第3回学校運営協議会	
次 第	
1 開会	（司会 教頭 宮城 良明）
2 校長挨拶	（校長 浦山 聖）
3 報告	
（1）学校教育自己診断アンケート結果について	
（2）各分掌・学年の進捗状況について（学年・分掌マネジメント表から）	
① 生徒部 生徒指導	

- ② 生徒部 自治会
- ③ 進路指導部
- ④ 生徒部 保健
- ⑤ 総務部
- ⑥ 3学年
- ⑦ 2学年
- ⑧ 1学年

4 協議

- ・ 令和7年度 学校評価について
- ・ 令和8年度 学校経営計画について

5 諸 連 絡

来年度は全委員について新任期となります。本校としましては次年度も現メンバーでこの会を進めていきたいと思っております。

6 校長「閉会」の挨拶

(校長 浦山 聖)

報告・協議内容等（意見の概要）

報告

(1) 各分掌・学年の進捗状況について（学年、分掌マネジメント表より）

① 1年生

- ・ 英検中心に毎朝 W-up を進めている。結果が楽しみです。
- ・ 社会的な状況も関係しているようで、スマホ関連の指導が増加している。
- ・ 進路に関する内容を学期に1回は扱い、志高い生徒を育てていきたい。

② 2年生

- ・ 規範意識については8～9割の生徒が成長しているが、一部の生徒に幼さが残り指導が難しい状況があるのは事実である。
- ・ 来年は3年生、卒業後社会に出ていきます。しっかり落ち着かせて送り出したい。

③ 3年生

- ・ 本日も合格報告があり、最後まで頑張る生徒がいることがとてもうれしい。
- ・ 進路をはじめ、多くの先生方に支えられここまで来ることができた。
- ・ 生徒たちの想いをしっかりと聞き取り、生徒の立場を支えていきながら進路実現につなげていきたい。

④ 教務部

- ・遠隔授業について、昨年度上手く言った対応が今年度は見直しが必要ではないかという声が教職員より上がっているので、検討を進めていきたい。
- ・校内のネットワークなどについて改変が多く、その都度不安が募る状況があった。
- ・本校は、教務主任と情報システム室との2本柱でうまく進められているので次年度もこの体制を継続していきたい。

⑤ 生徒部 自治会

- ・先生方の支えがあって進めていける自治会活動。働き方改革の流れの中で難しい場面が増えてきている。
- ・生徒を中心（student center）に据えて、いろんな取り組みを進めていきたいと考えます。

⑥ 生徒部 保健

- ・健康診断は全員終わっているが、治療勧告に対する報告が残っているのが課題。
- ・6月にはワークショップを兼ねた避難訓練を行い、生徒の意識が向上した。

⑦ 総務部

- ・図書館業務は SNS の発信を含め順調に運営できている。
- ・奨学金では、最近獲得できなかった50万円のゆめ未来奨学金を獲得した。
- ・PTA の入会に対する書面による同意書を取る必要があり、加入率の低下が心配。

⑧ 進路指導部

- ・年度当初の進学希望者は63%。現在受験期間中。今年は経済・経営学部が人気。そこを第一希望の生徒には苦しい状況であったと思い、最後までサポートしていく。
- ・共通テスト受験者は12名。結果を受けて二次試験に向けて指導していきます。
- ・2年1年についても、担任団中心に指導を進められており、来年度もこの流れで。

⑨ 生徒指導部

- ・遅刻への対応（体調が悪いから、連絡しているから）遅刻してもいいんだ、という意識をいかにして打破していくかが課題。
- ・欠席は昨年度に比べ数百件減少しており、「学校に行かなあかん」という意識は持たせることができていると思われる。
- ・挨拶を返してくれる生徒が徐々に増加している。

⑩ 人権教育委員会・生徒相談委員会

- ・担当者欠席により、資料に沿って教頭より報告した。
- ・いずれも上手く運営されていると考えています。

協議

令和7年度 学校評価について

<報告>

- ・目標の数字は少し高めに設定しています。ですから達していない所でも十分及第点である部分がある。
- ・働き方改革で、時間外勤務時間の縮減が求められていることから、先生方の研修の時間が十分確保できない。その為、授業をカットして午後研修ということや、オンデマンド配信にて実施するなど発想の転換をする必要がある。
- ・本校の教員の部屋が、担任団や教科ごとに分かれており、情報共有や連携を図りにくい。
- ・時間外の労働時間を月45時間以下に抑えるという指示もあるが、かなり難しいが、学校経営計画にも入れて、目標を達成できるようにする必要がある。

【質疑応答】

○印：学校運営協議委員会のご発言、ご意見 ●印：学校教員の発言、意見

○月45時間は、一日当たり1時間半くらいですが、先生方にはとても難しいですよね？

●勤務時間開始時刻直前に出勤する先生はまれで、多くの先生が30分～45分早めに出勤されることが普通であり、その時点で残業時間の半分近くを使っている。今までやっていたことを止めればクリアできるかもですが、それは実行できないことは明らか。保護者にしてみれば、保護者に合わせて教員が時間外に連絡することが当たり前になっている。この状況で、その連絡を時間外だからやめる、とはいかないわけです。例えば教育庁から公立学校ができる範囲を制限してもらうなど、何らかの対応を求めたいところです。

○報告の中で「student central」というお話がありましたが、保育の場面でも同じことが言われており、校種が変わっても同じ考え方なのだと思います。

令和8年度 学校経営計画について

<報告>

- ・令和10年度入学者選抜を見据えた学校改革を進める必要がある。普通科としてどのような魅力を出していくのか。
- ・取組の質を落とさずに、勤務（残業）時間を縮減するという難題に取り組まなければならない。
- ・中期的目標については、4（4）が新規。これは教育庁より必須項目として入れるように指示があったもの。まず令和8年度には、時間外労働時間が年720時間以上の教育職員を0人にする。そして令和11年度末の時点で、月の時間外労働時間が45時間を超える教育職員を0人にする。という目標が示されました。
- ・これらを達成するために、学習活動の質の変化（予習必須）を求め、また評価の仕方についても考え直し、従来のようなノート点検からは時間短縮のため脱却する必要がある。

- ・やっているレベルを落とさずに仕事を短くする。これが合言葉。

【質疑応答】（意見交換する時間がなかったため感想を伺いました）

○印：学校運営協議委員のご発言、ご意見 ●印：学校教員の発言、意見

○40人学級の現状で、一人当たりの生徒に費やす時間を考えると、説明のあった目標達成は物理的に無理ではないか。持ち帰り残業が出てきますが、それも教員の家庭環境により業務出来る時間も異なる。そもそも持ち帰り残業をすることがおかしい。高校は小中に比べても、空き時間がまだある方だが、それでもこの目標は達成ができないと思われる。そこで一クラスの人数が20人～25人になると可能性が出てくるように思います。報告を聞いていてあまりにも課題が大きくて大変。

○働き方改革に対応するためには、人的対応が不可欠ではないか。とはいえ、急に人員が増えるわけではないので、現有戦力の中で改善していくことを模索しなければならない。

○校種は違っても抱えている課題は共通な部分もたくさんありました。教職員の意識もまちまちなところもあります。できるだけリーダーシップをとる校長先生の想いと、生徒と向かい合う先生方一人ひとりの意見がしっかりと共有されていくことが課題だと思います。校長だけでなく、みんなでこの改革ならやっていけそうだと考えていくことも必要だと感じました。一方で校長先生がまとまって、府や国に対して人的配置の改善要求を出し続けていくことも大切だと思います。

次回の会議日程（令和8年度 第1回）

日 時	令和8年5月8日（金） 15:30 からの予定
会 場	大阪府立港高等学校 会議室